

胃がんの予防

著者	角山 裕美子
雑誌名	NICかわらばん
巻	385
発行年	2009-08-01
URL	http://hdl.handle.net/10631/793

看護大通信

59



新潟県立看護大学
老年看護学

助教 角山裕美子

胃がんは、世界的にみても寒冷地に多発する傾向があり、我が国においても、日本海沿岸北部に多いといわれています。なかでも新潟県は、全国的にみても胃がん死亡率が

高く、減少傾向にあるもののまだその数は多いです。

胃がんの原因は、生活環境の中でも特に食生活が指摘されていますが、ヘリコバクター・ピロリ菌という細菌が要因のひとつであることが明らかになりました。この菌を

胃がんの予防

除菌すると胃がん予防につながるため、今年1月に日本ヘリコバクター学会では除菌を勧める指針を公表しました。

世界各国のピロリ菌の感染率は、発展途上国で高く、先進国では低い割合となつています。しかし、日本のピロリ菌感染率は世界第3位であり、先進国のなかでも上位です。また、年齢別では10〜20歳代よりも40歳代以降のほうが多く感染しています。高齢者ほどピロリ菌感染率が高く、これから団塊の世代が70歳代

という胃がんになりやすい年代に達します。まず、ピロリ菌に感染しているかどうかを検査で調べ、感染者の方には除菌をお勧めしたいです。

ピロリ菌の検査は、大きく分けて内視鏡検査と内視鏡不要の検査があります。しかし、公的医療保険でピロリ菌除菌が認められているのは、胃潰瘍または十二指腸潰瘍の患者様に限られています。そのため、除菌者がなかなか増加しているのが現状です。除菌方法は、内視鏡検査か内視鏡不要の呼気検査

などを実施し、ピロリ菌がいる場合は除菌する薬が処方され内服することになります。その後、4週間以上たつて、判定検査をして除菌できたかを調べます。

がんは、日本の死亡原因の第1位であり、なかでも胃がんは男女とも毎年上位を占めています。しかし診断と治療の進歩により、早期発見、そして早期治療が可能となってきました。2007年6月に策定された「がん対策推進基本計画」では、個別目標の1つとしてがん検診の受診率を50%以上とすることが掲げられています。

がん検診とともにがん予防の意味で推奨したい検査のひとつです。



胃がんの原因は、生活環境の中でも特に食生活が指摘されていますが、ヘリコバクター・ピロリ菌という細菌が要因のひとつであることが明らかになりました。この菌を

胃がんの原因は、生活環境の中でも特に食生活が指摘されていますが、ヘリコバクター・ピロリ菌という細菌が要因のひとつであることが明らかになりました。この菌を